

(様式 1-3)

福島県(川内村)帰還環境整備事業計画 帰還環境整備事業等個票

平成 27 年 8 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

N0.	22	事業名	川内村総合グラウンド改修事業	事業番号	(1)-14-6
交付団体	川内村	事業実施主体(直接/間接)	直接		
総交付対象事業費	6,343(千円)	全体事業費	6,343(千円)		
帰還環境整備に関する目標					
川内村総合グラウンドは昭和 59 年に建設されてから 30 年を迎え、震災前までスポーツ少年団による野球部やソフト部、成人の野球部やソフト部、老人クラブによる各種ニュースポーツなどに利用されており、村民の憩いの場としての位置づけになっていた。 平成 24 年 4 月に震災による長期避難から帰村して以降、ソフト部や老人クラブの各種ニュースポーツ、戦後から続く盆野球などの活動が再開するに伴い、再び憩いの場として利用されるようになった。しかし、大震災の大きな揺れや原子力災害による長期避難の影響により、施設を管理できず、長期間放置されたため、グラウンド施設や管理棟が大きく損傷したままとなっているこのため、本施設を帰村者が安心・安全に末永く利用できるよう修繕・整備を行う。 本年度は、本事業により、改修工事の設計委託を実施する。					
事業概要					
事業期間：契約締結日～平成 28 年 3 月 31 日 事業内容：グラウンド整地、外構施設・設備等の改修、トイレ外壁塗装、ベンチ・管理棟の建て替えなど *平成 27 年度事業は、川内村総合グラウンド改修工事の設計委託を行う。 *平成 28 年度事業は、設計書をもとに全体改修工事と施工監理を行う。					
第四次川内村総合計画					
P.46 IV 基本計画 [Ⅱ] 村民一人ひとりが輝く村 2. 心の豊かさとゆとりのある村づくり					
(1) 生涯学習、文化活動、障害スポーツの推進					
②課題<生涯スポーツ>					
「・総合グラウンドを安心して利用できるように、適切な除染と補修を進める必要がある。体育館についても老朽化が進んできていることから、総合グラウンドやコミュニティーセンター等を合わせ、一体的な施設整備の方向について検討する必要がある。					
P.47③施策の方向と具体的内容					
<生涯スポーツ>					
「・総合グラウンドは、老朽化が進んでいることに加え、除染を行っても安心してスポーツに取り組みにくい環境が続くと予想されることから、屋内でのスポーツや健康づくりができる環境づくりを検討していく。また、老朽化してきている体育館の改修や新設などについて、コミュニティーセンターや総合グラウンド、さらには、役場庁舎を含めた、公共施設の整備と運営について、中長期的な視点での検討を行う。」					
※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください					
当面の事業概要					
<平成 27 年度>					
川内村総合グラウンド改修工事設計委託費： 6,343 千円					
<平成 28 年度>					
川内村総合グラウンド改修工事					
川内村総合グラウンド改修工事監理委託					

地域の帰還環境整備との関係
村の定住促進住宅整備事業、複合商業用施設整備事業、雇用創出関連事業によって、住民の帰村を促す条件整備を進めており、村民が楽しめる憩いの場として再生していきたい。
関連する事業の概要
村の定住化としては雇用や住居、日常生活用品の確保の事業を進めているほか、子育ての支援と村民の健康増進も併せて進めており、定住条件の多様化として、次の事業を行うこととしている。 ◎川内村村民体育センター改修事業（福島再生加速化交付金 第4回） 設計委託費： 2,966 千円 ◎川内村村民体育センター改修事業（福島再生加速化交付金 第8回） 改修工事費： 34,955 千円 ◎川内村室内村民プール施設整備事業【基幹事業】（子ども元気復活交付金） プール建設費（A=1,468 m²）： 341,052 千円 ◎川内村室内村民プール施設外構整備事業【効果促進】（子ども元気復活交付金） 外灯工事、外構工事、看板工事： 16,150 千円

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	